

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組15	呉羽丘陵での「人と自然との共生&再生可能エネルギー」フィールドミュージアム形成
②対応する目標・課題	地域の介護・福祉	
③対応する評価指標・目標値	■評価指標:健康な高齢者の割合	■目標値:82.7%(H17年度)⇒80%以上(H28年度)
④取組内容 市民に身近な里山である呉羽丘陵を舞台に、健康づくりや癒しの場、持続可能な社会づくりのための気づきの場、学びの場としての機能の充実を図り、「人と自然との共生&再生可能エネルギー」のフィールドミュージアムを形成する。		
<p>(1)医療・福祉分野と連携した森林空間の活用 呉羽丘陵に隣接する大学や大学附属病院、NPO等市民団体と連携して、回復期の患者や高齢者など市民誰もが、安全・快適に森林空間を散策できる散策路の整備として、森の中のインデペンデンス・ボードウォークの設置や、丘陵を活用したホーストレッキングなどのホースセラピー及び自然を活かした健康プログラムの開発を行い、地域・地区レベルでの健康・医療のサポート活動にもつなげる。インデペンデンス・ボードウォークは、車いすや、視力障害者、高齢者、ベビーカーの利用者も含めて、ユニバーサルな施設として整備する。整備にあたっては、地元の間伐材を活用するとともに、里山再生活動を行っているNPOとの連携のもと、市民主体でボードを設置する仕組みづくり(市民の寄付によりボードを設置するなど)を行う。ホースセラピーは、娯楽・スポーツ・治療・教育などの分野において身体的、精神的な効果が期待され、近隣の動物園で飼育している在来馬などを活用し、大学・教育機関、障害者乗馬を行っているNPO等市民団体との連携のもとに行う。</p> <p>(2)里山資源、里山空間を活用した再生可能エネルギーの導入 呉羽丘陵では、市民ボランティアを中心に竹林整備を進めており、伐採後の竹材の有効活用として、近隣の動物園から排出される糞尿と竹材によるバイオマスエネルギーシステムを構築する。さらに、このシステムにより二次的に産する堆肥(肥料)を活用した農作物の生産、さらには動物園で飼育する動物用の飼料作物の生産などの資源循環システムを構築する。また、丘陵の高低差から生まれる水の流れを活用した小水力発電システムや、丘陵内の施設を巡るソーラーバスなど、多様な再生可能エネルギーを導入する。これらの施設は、市民等が再生可能エネルギーの生産・利用に直接触れる機会として活用するとともに、再生可能エネルギーを体験できるプログラムを開発する。</p> <p>(3)動物・里山教育等環境教育プログラムの開発 大学やNPO等市民団体と連携して、呉羽丘陵で展開する新しい教育プログラムを研究開発するとともに、市民との協働による里山整備後(竹</p>		
⑤エリア 呉羽丘陵エリア(呉羽山公園・城山公園エリア)		
⑥主体 民間事業者、大学等学術研究機関、NPO等市民活動団体、富山市		
⑦活用した国等の制度 なし		
⑧地域の関与 【実績】・企業等によるインデペンデンス・ボードウォークプロジェクトへの支援 ・大学、NPO等によるホースセラピーのプログラムの共同開発 ・大学、NPO等による動物・里山教育等環境教育プログラムの共同開発 ・取組に対する富山市の支援等 【予定】・大学、NPO等によるバイオマス(動物糞尿、竹材)利用における協力		
⑨スケジュール		
23年度	(1)～(3)事前準備	
24年度	(1)～(3)調査検討	
25年度	(1)インデペンデンスボードウォークプロジェクト開始、ホースセラピープログラムの検討 (2)再生可能エネルギーの一部導入、バイオマス利用に関する調査検討 (3)環境教育プログラムの開発・試験実施	
26年度	(1)インデペンデンスボードウォークプロジェクトの推進(木道の延伸)、ホースセラピープログラムの検討・開発 (2)再生可能エネルギーの更なる導入、バイオマス利用に関する実証 (3)環境教育プログラムの開発・試験実施	
27年度	(1)インデペンデンスボードウォークプロジェクトの推進(木道の延伸)、ホースセラピープログラムの開発・試験実施 (2)バイオマス利用に関する実証 (3)環境教育プログラムの開発・試験実施	
28年度	(1)～(3)環境教育プログラムの実施	
29年度以降	(1)～(3)環境教育プログラムの実施	
⑩他の取組との連携 取組名:ヘルシー&交流タウン 連携内容:都心地区で実施する都市的な健康・福祉のまちづくりと、呉羽丘陵で取組む健康・福祉の森づくりを連携することにより、高齢者にとって健康維持や回復の基本となる外出(歩行)の機会の充実を図る。 取組名:エコフォレストとやま(林地集約化事業) 連携内容:呉羽丘陵での「人と自然との共生&再生可能エネルギー」フィールドミュージアム形成は、エコフォレストとやま(林地集約化事業)と連携することで、市民の森林・自然に対する理解が深まることから連携して取り組む。		
⑪自立・自律の方針・目標 ●市民・企業が主体となった自然保護・再生活動の定着 市民にとって身近な里山として定着している呉羽丘陵を活動の場として、自然保護・再生活動に関わるNPO等団体やボランティアを育成し、そうした団体等の活動の場が市域全体に広がることで、市民・企業が主体となった自然保護・再生活動の定着を目指す。		